

## ⑤ 小児がん

### 【現状】

- 本県の悪性新生物による0歳～19歳の死亡者数は、平成18年から平成22年までの5年間で21名となっています。
- 小児がんは、成人のがんと異なり生活習慣病と関係なく、乳幼児から青年期まで幅広い年齢に発症し、希少で多種多様ながん種から成ります。
- 沖縄県小児慢性特性疾患の悪性新生物の受給者数の推移を見ると、平成19年度214名、平成20年度209名、平成21年度225名、平成22年度206名、平成23年度206名となっています。
- 平成24年10月現在、沖縄県小児慢性特性疾患の悪性新生物で受給している188名の病名は、以下の通りです。

病名	件数
急性リンパ性白血病	55
急性骨髄性白血病	10
神経芽細胞腫	12
骨肉腫	7
ランゲルハンス細胞組織球症	6
B前駆細胞型旧制リンパ性白血病	5
ウィルムス腫瘍	5
頭蓋咽頭腫	5
非ホジキン型リンパ腫(T細胞型)	5
脳腫瘍	4
肝芽〈細胞〉腫	4
網膜芽細胞腫	4
原発性脳腫瘍	3

病名	件数
腎芽腫	3
慢性骨髄性白血病	3
胚細胞腫	3
骨髄異形成症候群	2
横紋筋肉腫	2
視神経膠腫	2
若年性骨髄単球性白血病	2
松果体未分化胚細胞腫	2
上衣腫	2
神経芽腫	2
毛様細胞性星細胞腫	2
軟骨肉腫他 37種類	

- 188名のうち県内で治療している主な医療機関には、南部医療センター・こども医療センター、琉球大学医学部附属病院等があり、県外での治療者は14名で、国立がんセンター中央病院等があります（小児慢性特定疾患は、指定医療機関を、2ヶ所まで指定できる）。

県内	人数
南部医療センター・こども医療センター	96
琉球大学医学部附属病院	76
那覇市立病院	2
県立北部病院	1
沖縄整肢療護園	1
沖縄赤十字病院	1
県立中部病院	6
宮古病院	1
ハートライフ病院	1
沖縄協同病院	1
愛聖クリニック	1
県内計	187

県外治療病院	人数
国立がんセンター中央病院	4
大阪大学医学部附属病院	2
大阪府立母子保健総合医療センター	3
静岡てんかん・神経医療センター	1
順大附属順天堂医院	1
塩田病院附属 福島孝徳記念クリニック	1
東京女子医科大学病院	1
神戸大学医学部附属病院	1
県外計	14

- 188名の年齢別の内訳をみると0歳児が3名、1歳から5歳が52名、6歳から10歳が46名、11歳から15歳が47名、16歳から19歳が40名となっています。
- このような年齢別の治療状況をみると、こどもの成長発達期に治療することは、治療後の発育・発達への影響や日常生活、学業への影響に支障をきたすことが考えられます。
- 患児及び患児兄弟・家族への支援の現状は、各保健所において患者家族の相談や訪問支援やがんのこどもを守る会沖縄県支部の紹介等を行っています。
- 小児がんに関する情報としては、国立がん研究センターがん対策情報センター「がん情報センター」のHPで「小児がんシリーズ」の冊子が掲載されており、無料で閲覧及びダウンロードを行うことが可能となっています。

### 【課題】

- 家族にとっては、治療中のみならずその後続く療養生活が長期にわたるので精神的なケアや相談できる体制が必要です。
- 治療や医療機関に関する情報及び患者家族の実態把握が十分ではありません。
- 小児がん患者の学習支援・自立支援等相談支援体制の整備が必要です。

### 【施策目標】

- 小児がん患者及びその家族の悩み、不安の軽減を図るための相談支援体制の充実。

### 【施策】

#### 沖縄県

- がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院、がん診療を行っている専門医療機関等と国が指定する小児がん拠点病院との連携を推進します
- 治療や医療機関に関する情報収集を実施します。
- 患者家族の実態把握（患者家族、がんのこどもを守る会沖縄県支部との意見交換会等）に努めます。
- 心理的社会的問題への対応を含めた相談支援体制の充実を図ります。
- 小児がん患者への教育環境の充実を図ります。

#### 保健医療関係者

- がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院、がん診療を行っている専門医療機関等は国が指定する小児がん拠点病院との連携の推進に努めます。
- がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院等の相談支援センターでは、小児がん患者やその家族の不安、悩みの軽減のための相談支援を実施できる体制の構築に努めます。